

2020年1月1日（水）

主 題：「実りある年を迎えるために」

—結実の奥義—

テキスト：マルコ福音書4章13－20節

### はじめに

- ・新年、明けましておめでとうございます！！

今年も、神様が皆様とともにおられ、ご栄光を現してくださいますよう願います。

- ・ところで、昨年はいろいろなことがありましたね。世界で、日本で、また個人的にも、それぞれが色々な経験を積まれたことと思います。今の時代を考えると、私は先が見えない、読めない時代へ(不安)入っている気がしています。皆さんは、いかがでしょうか。
- ・そういう時代に生きる私たちに、何が求められるのでしょうか。  
それは、しっかりした座標軸が求められることです
- ・私たちは、新年を実りあるものにするためにどんな目標を立てるのでしょうか。

{例 話} 先日、目標の立て方について次のようなアドバイスをもらう

- ① 元旦に目標を宣言する
- ② 期間をはっきりさせておく
- ③ 自分で目標を決め、数字で設定する
- ④ 目標設定は高すぎず低すぎず
- ⑤ 神に約束する
- ⑥ 紙に書いて壁に貼っておく
- ⑦ 目標達成時には自分をほめる

\* みな、素晴らしいですね。しかし、これらのアドバイスを実践するには、本人の努力が必須です。そこで、「今年も頑張ってるね！」となります。しかし、皆それなりに頑張っているのではないのでしょうか？

- ・神を信じる聖徒には、『頑張ってる生きる』生活が求められるのでしょうか。  
どうぞ、誤解されませんように願います。人間的にルーズであってよい、というのではありません。私の意味は、人間的な努力だけで『頑張ってる生きる』のではない、ということです。クリスチャン生活は、「頑張ってるできる」種類のものではありません、  
では、いったいどうすれば実りある新しい年を迎えることができるのでしょうか？ イエスは次のように語られた。

・聖 書：「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。」マルコ4:20

- ・イエスは、地に蒔いた種は芽を出し、人手によらず実をならせると言われました。このたとえ話しは、誰にでも理解できます。皆さん。この聖句は、イエスが自然界の現象について教えているのではありません。このたとえ話しは、「神の国」の支配について

て教えているのです。つまり神の支配が人間に及ぶ時、このようなことが起きると述べています。

- ・ところでマルコ4章の文脈を読めば分かるように、「種」、「地」は象徴的表現です。

「種」：神のみことば（聖書の言葉）

「地」：人（人の心）

これは神と人間の関係についてです。つまり神のことばは、人間に向かって語られ、それを心にとめる人は自ずから豊かな実を实らせると言われました。これは実に単純な自然界の法則（神の法則）です。

種が蒔かれ ⇒ 発芽 ⇒ 成長 ⇒ 結実

- ・実を实らせる、そこにはプロセスがあります。結実は人生の最大目標です。私たちも仕事で成果を得ること、勉強・研究でも成果を得ること、その結果が2倍になったら大喜びではありませんか。聖書は30倍、60倍、100倍の実を結ばせると教えています。
- ・では、イエスが語られたこの「たとえ話」は、私たちに何を教えているのでしょうか？ 2点。

## 大切なポイント

### 1. 結実のメカニズム

#### 1) ヘブル的発想

- ・イエスは「土地」を「人」にたとえられましたが、これはユダヤ的発想からすれば自然なことです。ヘブル語で「人」のことを「アダム」と言います。神が最初に造られた人はアダムと呼ばれますが、これは人名としても、また人一般を表す言葉で、どちらもアダムです。創世記

2:7 神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

- ・土地のことを「アダマー」と言う。ですから「土地のちり」⇒「アダマーのちり」語源的には「アダムはアダマー（土地）から造られたもの」です。
- ・聖書では「アダム」と「アダマー」、すなわち「人」と「土地」は密接な関係があります。罪を犯して、神との関係が切れてしまった人に対して、神はこう言われました。創世記

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

- ・罪を犯した人に対して、神は「あなたは土（土地）だと宣言されました。」そしてイエスは、たとえ話の中で「神の国は、人が地（土地）に種を蒔くようなものだ」と言われました。また「地（土地）は人手によらず実を实らせる」と言われましたが、この「地（土地）」は「人」を意味していることを心に留めたいと思います。ヘブル文化の中で生活していたユダヤ人には、この「種まきの譬え」は判りやすいものであったと思います。

## 2) 異邦人への教え

- では、イエスはヘブル文化に馴染みが薄い異邦人には、何を教えようとして  
いるでしょうか。
- 結論としてこう言えるかと思えます。神のかたちで創造された人が、罪によって、神の  
かたちから離れて壊れてしまいました。そして、ただの土に等しいものになってしま  
いました。
- しかし、ただの土に等しいものになってしまった人に、神のみことばの種が蒔かれるな  
らば、発芽し、成長し、結実するという奥義が秘められています。そして、もう一度神  
のかたちを取り戻そうとするところに、神のご計画があります。その姿の完成を、イエ  
スの内に見ることができます。(第二のアダム)
- ですから聖書の教えは、人間的努力によるのではなく、神のみことばと、それを受ける人  
の心の適合性によって、実を結ぶことになると教えています。  
つまり、神のみことばである種と、地(土地)である人の心の祝福された関係によって、  
輝かしい神の姿が結実すると教えているのです。私たちはこのことを更に掘り下げてみ  
ましょう。自然界には神の定めた法則がありますが、その法則から次の3原則が分か  
ります。

### 原則1：命は種の中に隠されている

- 種だけを見ると、一体どうして、あのような美しい花が咲いたり、多くの実を实らせ  
ることなど想像を超えるものがあります。しかし、種はそれだけの命の計画を持って  
いるということです。

種が蒔かれ ⇒ 発芽 ⇒ 成長 ⇒ 結実

それがどのような順番で、どのように行われるか、すべては「種」の中に全て隠され  
ています。

- 同じように、「種」であるみことばは、私たちを導き、照らし、満たし、私たちの人  
格にまで働きかける作用があります。そしてイエスの姿という人格にまで育つとい  
うことが、みことばの命の中に既に織り込まれているのです。今風に言えば、みことば  
の「種」にはDNAが秘められているということです。聖書のことばは地(人)に蒔か  
れる「種」であり、大いなる力が秘められています。

1:18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神  
の力です。Iコリント

4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関  
節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができ  
ます。ヘブル

- \* 皆さん。「種」は人目には価値が無いように見えても、そこには価値があります。  
同じように、みことばの「種」にも命が隠されています。

### 原則2：種は土地を必要とする

- どんなにすばらしい植物の「種」でも、地に蒔かれなければ、発芽しませ

ん。発芽しなければ、当然実を結ぶこともありません。種は土地を必要とする。同じように、神の言葉である「種」も人の心に蒔かれて、はじめて価値があります。

- 皆さん。聖書のことばを、ペットに与えても、また覚えさせても何の実も結ばないでしょう。聖書の言葉は、人の心に蒔かれ、そしてとどまって始めてイエスの姿のように結実するのです。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができません。ヨハネ

15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

- 皆さん。「ことば」がとどまるとはどういうことでしょうか。単に覚えるということだけではありません。ある「ことば」が心に残り、その人の行動を変えさせることを言うのです。
- ですから、私は「とどまる」とは、心の琴線にふれることではないかと思 います。聖書のみ言葉は、神からのラブレターです。聖書の言葉が人の心にとどまる時、心の中に変化が起こります。そして、大きな行動の変化を生じさせます。み言葉の「種」が、人の心の中にとどまらなければ、そのままです。どんなに価値があっても、それが命の芽を吹くことはありません。みことばの「種」は、その命を発芽させるために私たちの心を必要としている。その「種」が心にとどまる時、その人の行動を変えるような喜びを与えます。

### 原則3：地は自ずから実を結ばせる

- このたとえ話の中心テーマですが、「種」が実を実らせるのは、誰かが頑張るからではありません。結実のプログラムは「種」の中にある。しかし、土がそれを支え、大きく成長させていくのです。イエスも「どのようにしてか、人は知りません」と言われた。マルコ福音書

4:27 夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。

- すなわち、結実のメカニズムは人に隠されているのです。人の頑張りでなく、人の働きによるのでなく、神のかたちを(姿)を結実させるのは、ただ神のみことばである「種」であると、教えています。創世記

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

- アダム（人）は神のかたちに創造されました。神のかたちを現すこと、これがアダムの本質でした。しかし罪のため、その本質である神のかたちが壊されました。しかし、神はみ言葉の種によって、もう一度そのかたちが結実するように作られました。それが神の望まれるアダム（人）であります。
- すでに申し上げたように、植物の「種」と「土地」は互いに適合し合っています。同じ

ように、人の心の中に蒔かれた神のみことばの「種」は、心の中で発芽し、心の中で根を張り、大きく成長します。神はあなたを、そのようにすばらしく造られているのです。神はあなたを、そのように尊いものとして創造しておられます。

\*これが結実のメカニズムです。

## 2. 地を整えられる主

4:28 地はひとりでに実をならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。 マルコ

### 1) 神はケアーされるお方

- ・この「種」(みことば) は一度植えられると、神は人をほったらかしにされません。太陽光を与え、雨を降らせるのは神です。太陽光がなければ、植物は健康に成長しません。雨が降らなければ、土地は渇き、そこに植える植物も死んでしまいます。神は種を蒔かれた土地(私達の心)をほったらかしにされることは、ありません。
- ・ですから、蒔かれた『種』は無になりません。

### 2) 四つの異なる地

- ・イエスはこのたとえ話しの前に、有名は「種まきのたとえ」を語られた。  
(マルコ4章3～9節を説明)

4つのタイプを見ます。ある人はこう分析しました。

- ① タイプ1 (説教を聞いても馬耳東風。全然残ってない)
- ② タイプ2 (信仰が表面的、心の奥底まで入ってない)
- ③ タイプ3 (いつまでたっても肉)
- ④ タイプ4 (模範的クリスチャン、聖書を読み、祈り、奉仕している)

- ・皆さん。ここで大切なことは、このたとえは自分や人を評価したり、また裁いたりするために語られてのではないことです。私達の心は放っておいたら、タイプ1かタイプ2か、あるいはタイプ3です。タイプ4になるために、どうしても神の手が私たちに伸ばされる必要がある。

「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。」マルコ4:20

### 3) では、どうすればタイプ4になれるか?

- ・イエスは、ヨハネの福音書の中で何度も何度も「私にとどまりなさい」、「私の愛の内にとどまりなさい」、「私のことばにとどまりなさい」と言われました。なぜでしょうか?  
⇒ それは、私たちが神のことば(聖書のみことば)にとどまろうとしないからです。人の本性は、善よりも悪を愛します。
- ・このたとえでいうなら、タイプ1～タイプ3になりやすいのです。イエスはこのことをご存知でした。イエスの側近であっても、このタイプに陥り易かったのです。だから何度も「とどまりなさい」、「とどまりなさい」と言われたのでした。

・では、「とどまる」とは、どういうことでしょうか？

⇒ 簡単に言えば、常に意識すること (意 志)

① 口ずさむこと 詩篇

1:1 幸いなことよ悪しき者のはかりごとに歩まず罪人の道に立たず嘲る者の座に着かない人。

1:2 【主】のおしえを喜びとし昼も夜もそのおしえを口ずさむ人。

1:3 その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結びその葉は枯れずそのなすことはすべて栄える。

申命記

6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。

6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

② 地(心)をイエスの手にゆだねること

・イエスの手にゆだねるならば、イエスがサタンの働きを打ち砕いてくださいます。心の中にある大きな石、根が張るのを邪魔している石が取り除かれます。そして、罪のいばらも取り除いてくださいます。エゼキエル書

36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

4) 主のお姿に成長する

・イエスは、たとえ話して、地(人・アダム)にみことばの種を蒔くことを言われました。ヨハネ福音書

1:1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

・聖書のみことばが人の内側にとどまる時、イエスが人の内側に住み始めてくださいます(内住)。あなたはイエスが内住してくださるほど、尊い存在です。その初めは、小さな始まりであっても、どんどん大きくなり成長していくのです。エペソ人への手紙

4:13 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

ま と め

主 題：「実りある年を迎えるために」

— 結実の奥義 —

イエスが語られた結実の奥義は、神の祝福です。2020年が、神の祝福で包まれますように！  
大切なポイントは、何でしょうか？

1. イエスにとどまること

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。ヨハネ15:5

2. みことばにとどまること 申命記

6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。

3. イエスの手にゆだねること ヨハネ福音書

14:1 あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

⇒ 結実はずから現れる

\*God bless you !